

8 京田辺市の建造物調査

岸 泰子

1. 概要

京田辺市では2017年度から市史編さん事業を行っている。資料編として建造物・美術工芸をとりあげる予定である。建造物については、基礎調査として市内の地区ごとに悉皆調査（一次調査）を行っている。一次調査では地域の歴史を知る・理解するために重要だと思われる建造物を抽出することを目的としていることから、地区全体を踏査し、寺社、民家、公共建築などを目視で調査している。なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症流行をうけ、個別の建造物調査および聞き取りをともなう調査は中断している。

2. 成果

今年度は、2020年9月29日に大住地区の悉皆調査を実施した。参加者は、岸、登谷伸宏（京都工芸繊維大学准教授、京田辺市史編さん 美術工芸・建造物部会委員）である。

京田辺市内に残される歴史的建造物、特に前近代に建設された建造物が多いとはいえない。これは、近代以降、この地域の開発が進んだことが影響している。大住地区にも前近代の建物はほとんど残っていない。そのなかで、池平の月読神社本殿は伊藤平左衛門が建設に関わったことが知られる。伊藤平左衛門は、明治期の東本願寺の御影堂など、明治期に多くの建造物建設の棟梁をつとめた人物である。月読神社本殿は一間社春日造で装飾が少ない簡素な形式を採用する一方で、庇の虹梁を蕨花頭形にするなど細部に近代的な工夫がみられる。このような地域・時代的な特徴をもつ建造物を対象として、今後二次調査として詳しく調査する予定である。

また、今年度は新たな試みとして、2021年2月19日、プロのカメラマンによる建造物の撮影を行った。これは、市史刊行時に必要となるカラー写真掲載の準備である。対象は、国の重要文化財である澤井家住宅である。本住宅は京田辺を代表する規模の大きな近世民家（農家）建築であり、今後調査を進める予定である。



写真1 月読神社本殿